

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 1 日現在

機関番号：32636

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23652066

研究課題名（和文）知的フロンティアとしてのコネチカット州ハートフォード

研究課題名（英文）Hartford, Connecticut as an Intellectual Frontier

## 研究代表者

小倉 いずみ (OGURA IZUMI)

大東文化大学・法学部・教授

研究者番号：00185563

研究成果の概要（和文）：本研究はアメリカ史において最初の西漸運動と考えられるハートフォード創設を、フロンティア理論の観点からその先駆性を解説した。1638年にハートフォードは荒野の中に創設され、自治のための基本法を制定し、立憲国家を実現した。文学においてはコネチカット・ヤンキーを創り出し、黒人奴隷制に反対した町である。本研究はフロンティアとしてアメリカ人の自立の精神を創り出したハートフォードを、文学と歴史の観点から研究した。

研究成果の概要（英文）：The project of “Hartford, Connecticut as an Intellectual Frontier” explored the first frontier town in the colonial period of British America. Hartford was founded by Thomas Hooker and developed its originality as a character of Connecticut Yankee in American literature, Frontier thesis by Frederick Jackson Turner, and a station of “underground railroad” in the anti-slavery movement. The Project introduced Hartford’s contribution to American self-consciousness and independence of American self.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：国際研究者交流、国際情報交換、コネチカット州ハートフォード、マーク・トウェイン、ストウ夫人、マサチューセッツ州コンコード、ボストン

## 1. 研究開始当初の背景

コネチカット州ハートフォード市は現在に至るまでアメリカ植民地時代のタウンの形を残している数少ないニューイングランドの町である。しかし荒野に作られた最初のフロンティアとしてハートフォードは大きな意義を持つ。本研究はハートフォードの独創性を探究し、紹介した。

小倉は平成15年度から18年度に行った科学研究費補助金基盤研究(B)「ピューリタニズムの生成と継承に関する研究」において、トマス・フッカーの説教を研究した。この研

究では英国におけるフッカーとオランダ亡命中のフッカーの著作を分析したが、次の科学研究費基盤研究(C)「トマス・フッカーとコネチカット植民地に関する研究」ではコネチカットで戦われたピーコット戦争の文献を収集し、これを『アメリカ文学と戦争』(2010)に出版した。この研究ではフッカーの生涯最後の400ページの著作で、教会体制を解説する『教会規律の概要』(1648)を分析し、ケンブリッジ綱領(1648)に示された会衆主義の思想との関連を解説した。

本研究はこれらの研究をベースに、アメリ

カの西漸運動の先駆けと言われるハートフォード創設を政治的・文化的側面から深化させた。ハートフォードはペリー・ミラーが言う最初の「荒野への使命」を実現したものであり、自由・平等・人権を重視した民主主義の成功例であった。フレデリック・ターナーが提唱したフロンティアにおける理想と民主主義は、ハートフォードで実現した。本研究は、領土の拡大、理想郷としてのフロンティア、文学の発祥の地、自治、奴隷制への反対、など多面的にハートフォードを分析した。

## 2. 研究の目的

本研究は広範囲な地理的・歴史的な視野からハートフォードというタウンを調査することを目的とした。荒野における最初の実験都市だったハートフォードは、フロンティア理論の解釈ではアメリカ思想の源流と解釈される。マーク・トウェインやストウ夫人の思想はハートフォードの風土により育まれたものである。それは伝統や慣習にとられない新しい町であり、苛酷な自然状況での自給自足の生活であった。

コネチカット植民地が成功したがゆえにアメリカが西部に拡大する足がかりを得たとも言えるのであり、後のアメリカ合衆国成立に大きな影響を及ぼした事業であった。

本研究は現地調査により、コネチカットの歴史を保存するコネチカット墓石協会の会員やコネチカット州歴史家と呼ばれる州が任命する歴史家と会合を持った。アメリカ人の歴史に対する強い崇敬と彼らの自負心、歴史から得た精神の独立を探究することを目的とした。

## 3. 研究の方法

ハートフォードにおける現地調査は本研究の重要な部分である。またそれに付随して、植民地時代のタウンの典型であるマサチューセッツ州コンコードも現地調査の対象とした。二つのタウンはボストンの外に創設された最初のタウンであり、類似点が多い。またアメリカ文学や思想においても重要な文化人を生んだ町である。

(1) コネチカット州ハートフォードに出張し、コネチカット州立博物館、コネチカット川から荷物を陸揚げした場所、フッカーの居宅があった場所を確認した。またハートフォード市内の墓地のシーダー・ヒル墓地とトウェインとストウ夫人の家を調査した。この調査はConnecticut Gravestone Network(コネチカット墓石研究組織)の事務局長のルーシー・ブラウン氏に助けていただいた。

調査の後、コネチカット州歴史家のウォル

ター・ウッドワード教授とフッカーから数えて8代目のシェパード・ホルコム氏と討論した。ハートフォードでは研究分担者の深瀬有希子も加わり研究者どうしの知識を深めた。またジョンズ・ホプキンス大学のラーザー・ジフ先生とハートフォードで打ち合わせをした。

ボストンへの帰路でウースターに立ち寄り、ウースター・ポリテクニク・インスティテュートで全米エマソン協会会長のWesley Mott 教授とエドガー・ポーの専門家であるケント・ラングクイスト教授に会った。その後この大学に隣接するアメリカ古文書協会において、古文書の保存に関する調査をおこなった。これはハーバード大学のホール教授の紹介によるものである。

(2) マサチューセッツ州コンコードで現地調査を行なった。奴隷制に関する研究を進めるため、ラルフ・エマソンの家やウォールデン湖を調査した。またガイドがボストン周辺の地理に詳しくかったので、ウインスロップが最初に新大陸として見たアン岬やグロスターを見学した。グロスターはアメリカが経済的に独立した1812年の戦争が行われた場所で、英国海軍の進軍を最初に確認した場所でもある。

二か所で行った現地調査で得た資料は、日本英文学会のシンポジウムと日本アメリカ文学会東京支部例会での発表資料として使用した。視覚から得る資料は重要なので、原典の英文と共にコネチカットとマサチューセッツの歴史の知識に不可欠である。

## 4. 研究成果

本研究の成果は学会のシンポジウムにおいて発表した。最終年度の2013年3月に65ページから成る研究成果報告書を金星堂から出版した。

2011年7月1日に小倉いずみのホームページ Academic Achievement を開設した。本研究だけでなく、過去15年間にわたる科学研究費のプロジェクトの研究内容、ジョン・コットンとトマス・フッカー、アメリカ・ルネサンスの作家、ラルフ・エマソン、アメリカの都市、著作権についてのページを設けた。また英文ページも作成し、アメリカの研究協力者に情報が伝わるようにしている。現在まで1年半で1000件以上の閲覧があり、北海道から沖縄まで全国からアクセスがある。2013年に入ってから月間100件を越えている。

毎月一度は学会発表や出版に関して情報を更新するが、現地調査で撮影した写真を多く収録し、視覚の点からも楽しめるように工夫した。

(1) 歴史からみたハートフォード  
フレデリック・ジャクソン・ターナーはアメリカの西部は不満のはげ口として「安全弁」の役割を果たしたと述べたが、ハートフォードに移住したフッカーやサミュエル・ストーンは、マサチューセッツとは違う会衆主義教会を設立しようとした。それは、教会員資格を公民の資格の条件としなかったこと、そして幼児洗礼が厳格ではなく、マサチューセッツで 1662 年に承認された半途契約をコネチカットではフッカーの生前から提唱していたことにも表れている。

(2) 法律からみたハートフォード  
コネチカット植民地総会議の構成は、選挙によって選ばれる代議員中心とし、総督の再任を禁じた。この目的は権力の腐敗を防止することであった。コネチカット基本法に書かれた自治は 1662 年の勅許状の中でも変わることなく、アメリカ独立革命まで維持された。

本研究の現地調査では、エドモンド・アンドロス総督が奪おうとした勅許状を、植民地の人々が隠した檜の木の前にも確認した。

(3) 奴隷解放運動とハートフォード  
コネチカットには南北戦争以前にも多くの黒人がいた。植民地時代も召使いとして使用されたが、彼らはハートフォードの一番古い墓地 the Ancient Burying Ground に白人と同様に埋葬されている。本研究の現地調査でも黒人の埋葬を記す記念碑を確認した。商業地のボストンとは違いハートフォードは Underground Railroad の基地となって、逃亡奴隷を保護した。カナダへのルートとしてハートフォードは奴隷解放の重要な基地であった。

アメリカ文学においてトウエインやストウが描いた黒人は、無知ではあっても、人間性溢れる人物が多い。偏見がない描写は、ハートフォードにおける黒人の地位の高さを示すものである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

①深瀬有希子「クレオールの新大陸——Toni Morrison の *A Mercy* にみる 17 世紀植民地の諸相」『知的フロンティアとしてのコネチカット州ハートフォード』46-65 頁。平成 25 年(2013) 3 月 31 日 (査読無)

②深瀬有希子 (書評) 杉野健太郎編『アメリカ文化入門』依藤道夫編『アメリカ文学と戦争』『ヘンリー・ソロー研究論集 (日本ソロー学会)』第 38 号、82 頁。平成 24 年(2012) 10 月 1 日 (査読有)

③小倉いずみ「アメリカ大陸の開拓における

「荒野への使命」『日本英文学会第 84 回大会 Proceedings』102-103 頁。平成 24 年(2012) 年 9 月 15 日 (査読無)

〔学会発表〕(計 3 件)

①深瀬有希子「*A Mercy* にみる「想像の共同体」——植民地文学と「他者」表象」, 日本英文学会九州支部第 65 回大会シンポジウム「トニ・モリスンが描くアメリカ——植民地時代から公民権運動まで」九州産業大学、平成 24 年(2012)10 月 27 日

②小倉いずみ シンポジウム講師「アメリカ大陸の開拓における「荒野への使命」日本英文学会第 84 回全国大会シンポジウム第 9 部門「旅と移動のアメリカ文学」(専修大学)平成 24 年(2012) 年 5 月 27 日

③小倉いずみ「トマス・フッカーの生涯とコネチカット植民地」日本アメリカ文学会東京支部例会 (慶応大学)平成 23 年(2011) 年 9 月 24 日

〔図書〕(計 3 件)

①小倉いずみ『知的フロンティアとしてのコネチカット州ハートフォード』日本学術振興会科学研究費学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究 (課題番号 23652066) による研究成果報告書。1-65, i-vi 頁。平成 25 年(2013) 3 月 31 日

②小倉いずみ「エマソンとソローにおける言語と象形文字」『ソローとアメリカ精神——米文学の源流を求めて』(日本ソロー学会ヘンリー・ソロー没後 150 周年記念論集) 金星堂。平成 24 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費学術図書 (課題番号 245042) による出版物。小倉いずみの編著書で総頁 408 頁。平成 24 年(2012) 10 月 1 日

③深瀬有希子「コンコードの「空飛ぶアフリカ人」——所有と継承をめぐる問題」『ソローとアメリカ精神——米文学の源流を求めて』金星堂, 156-168 頁。平成 24 年(2012) 10 月 1 日

〔その他〕

小倉いずみホームページ

URL: Academic Achievement

<http://www6.ocn.ne.jp/~aachieve/index.html>

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

小倉いずみ (OGURA IZUMI)

大東文化大学・法学部・教授

研究者番号: 00185563

(2) 研究分担者

深瀬有希子 (FUKASE YUKIKO)  
東京理科大学・理工学部・准教授  
研究者番号：20445696  
(2012年度研究分担者)

(3)研究協力者 (海外共同研究者)

①デヴィッド・ホール (ハーバード大学神学  
大学院教授) David D. Hall, Bartlett  
Research Professor on New England Church  
History, Harvard Divinity School, Harvard  
University

②ラーザー・ジフ (ジョンズ・ホプキンス大  
学英文学部教授) Larzer Ziff, Caroline  
Donovan Professor of English, Emeritus,  
and Research Professor of Department of  
English, Johns Hopkins University

③ウェスレー・モット (ウースター・ポリテ  
クニック・インスチテュート英文学部教授、  
アメリカ合衆国ラルフ・ウォルド・エマソン  
学会元会長) Wesley T. Mott, Professor of  
English, Department of English, Worcester  
Polytechnic Institute

④ウォルター・ウッドワード (コネチカット  
州立大学准教授、コネチカット州歴史家)  
Walter Woodward, Connecticut State  
Historian and Associate Professor of  
History, University of Connecticut

⑤ケント・ラングクイスト (ウースター・ポ  
リテクニック・インスチテュート英文学部教  
授) Kent P. Ljungquist, Professor of  
English, Department of English, Worcester  
Polytechnic Institute

⑥ルーシー・ブラウン (コネチカット墓石協  
会事務局長) Ruthie Brown, Executive  
Director, Connecticut Gravestone Network  
(CGN)

⑦シェパード・ホルコム (ハートフォード市  
Ancient Burying Ground 理事長) Shepherd M.  
Holcombe, Chairman, Ancient Burying  
Ground Association, Inc.